岩手県総合計画審議会　第２回「ゆたかさ」検討部会（現地視察会）記録

日時：平成 24 年 10 月 23 日（火）
9:30～16:40
場所：遠野市内

出席者

別紙出席者名簿のとおり。（ゆたかさ検討部会委員６人、事務局職員４人）
なお、一般県民、報道関係者の傍聴はなし。

内容

（１）視察　遠野地域木材総合供給モデル基地　11:30～12:40

説明者　遠野市林業振興課　佐々木課長、河野課長補佐
協同組合　森林のくに遠野・協同機構　立花理事長

【要旨】

○遠野木工団地整備の経緯等

・遠野市は総面積の約 83％を森林が占めており、古くから林業が盛んであったが、近年は、木材価格の低迷により採算性が悪化し、林業従事者の所得や意欲の低下が問題となっていた。そのため、産出木材に付加価値を付けて地域の林業を活性化させることを目指して遠野木工団地を整備した。

・平成５～15 年度の約 11 年かけて整備を行い、平成 17 年度には木工団地内事業体の相談役として「協同組合　森林のくに遠野・協同機構」を設立した。

・市内の森林構成は民有林が 57％、43％が国有林となっている。

・「協同組合　森林のくに遠野・協同機構」は、毎月定例会を開催し、各事業体の情報交換はもちろんのこと、森林管理署、県もオブザーバーとして定例会に参加し、情報共有を図っている。

・遠野市は昭和 60 年から公共施設の木造化を進めており、学校施設の木造化率は約 42％にまで達している。

○モデル基地の特徴等

・川上から川下までの木材関連事業体を集積させているのが当遠野木工団地の特徴である。

・「遠野木材加工事業協同組合」では、コンピュータ制御によりプレカット加工を行っている。

・市内製材所から出される製材端材をチップ加工し、それを木質チップボイラーの燃料等に供給している。

○震災以降の取組み

・遠野木工団地各事業体が連携し、遠野市内に仮設住宅 40 戸を短期間で建設したほか、昨年 11 月に遠野市と釜石市、大槌町から成る「上閉伊地域復興住宅協議会」を設立し、釜石市・大槌町から出される原木を遠野木工団地内で製材・乾燥・プレカット加工等行い、建築資材として釜石市・大槌町に供給し、被災された方々の復興住宅整備及び

雇用の創出を図ろうとする取り組みを行っている。

・遠野市森林総合センター内には昨年８月から「高齢・障害・求職者雇用支援機構　ポリテクセンター岩手」が入り、被災された方々の職業訓練を行っている。

・一般住宅の安定的な需要はまだ見込めないものの、復興公営住宅の需要が見込まれるため、半年～1 年をかけて準備を行ってきた。製材・プレカット材の保管場所の問題等もあったが、ようやく見込みがついてきたところ。

○林業が抱える課題等

・円高により外材の輸入圧力が強まるなか､作業の効率性や産地間競争に打ち勝つため、全国の林業地域で大規模な製材所等の整備等を行っているが、限られた国産材の需要を奪い合うことにより、頑張れば頑張るほど価格が下がってしまうという悪循環が生じている。

・再生可能エネルギーの固定価格買取制度が始まったこともあり、今後は木材を燃料やエネルギーとして利用していくことも必要である。

（２）昼食　レストラン結和　12:50～13:30

説明者　あやおり夢を咲かせる女性の会　菊池会長

【要旨】

・綾織地区は、昔は栄えていたが、今は店も少なくなってしまったため、地域を活性化するために何かできることはないか考えていたところ、ＪＡ花巻と合併したことによりＪＡ遠野の建物が空いたことから、住民を直接廻ってアイディアを募り、産直とレストランを開設することになった。

・土地建物は遠野市が旧ＪＡ遠野から譲り受け、（社福）睦会に貸しているが、その一部をさらに借りうける形で 3 月にオープンした。

・夏場は客が入ったし、敬老会等のイベント用の注文を受けたりもしているが、盛岡から遠野市街に向かうルートから少し外れた場所にあることもあり、経営的には今の所苦しい。

・綾織中学校の生徒たちも環境整備等の協力をしてくれており、「結和」という名前も生徒たちが考えてくれた。

・ゆくゆくは壁を隔てた隣で活動をしている障がいのある人たちにも接客や洗い物等の手伝いをしてもらうことも考えている。

・「夢を咲かせる女性の会」は、20 代から 70 代までのおよそ 30 人で活動しており、「田んぼの中のトイレ」や「道の駅『風の丘』の『夢咲き茶屋』」など色々な夢を実現させてきた。自分たちが元気にならなければ地域も元気にならないと考えている。

（３）視察　ＮＰＯ法人　遠野　山・里・暮らしネットワーク　13:50～15:20

菊池会長とともに、当該法人と連携して活動する以下の団体を訪問

①遠野ドライビングスクール

説明者　篠原管理者、藤井副管理者

【要旨】

・遠野市にあった唯一の自動車学校が少子化の影響もあり閉鎖することになったため、市が県内の自動車学校の誘致活動に着手したが、多額の初期投資がかかる等の問題によりうまくいかなかった。
・そこで、市から、農家体験やそば打ち体験、乗馬体験等をしながら教習を受講してもらう合宿型運転免許取得教習を提案し、運転免許取得教習とグリーンツーリズムのコラボレーションが実現することになった。
・当校はH16にオープンし、これまで約6400人が入校し、そのうち3840人が合宿型で受講した。合宿者のうち約1300人が授業の合間に農業体験等をしており、免許取得後に、遠野を再度訪れる人もいる。
・閉鎖した自動車学校の受講者数は年間260人だったが、当校の受講者数は800人にまで増えている。
・ただ、遠野市の人口は減少を続けており、少子化も進んでいくため、自動車学校の先行きは暗い。いずれは農業で食べていかなければならなくなると考えており、ブランド化を進めていかなければならない。
・閑散期となる夏期休暇等の長期休暇期間以外の時期は、職員が無農薬のトマトやコメ、シイタケ等を栽培している。
・この事業は関係団体の協力体制がしっかりしていなければできない。他の合宿型運転免許取得教習では自前の合宿所を用意する所が多いが、遠野の良さを体験してもらうため民泊してもらっている。このことについてホテル業界からの反発もない。遠野全体のことを考えてもらっている。

②里山クラブ やかまし村

説明者　糠森　隆　氏

【要旨】

・元々、宮代集落は祭り等がなかったことから、地域を活性化するとともに、自分たちが楽しむことを目的に活動を始めた。
・地域の中には、活動内容に消極的な人もいることから、無理せずにやりたい人が集まる形でやっている。
・窯焼きピザや焼きそばを作ったりするほか、まき割体験や竹とんぼ等の昔ながらの玩具作り等を行っている。
・20人ほどの主力メンバーのほか、「村民」となっている人が200人ほどいる。幅広い年齢層の人たちがおり、子供たちも多い。若い世代に何かしらを伝えていければよいと思っている。
・他の地域からも人が訪ねてきており、多い時には週に3日位やってくることもある。本業の農業をやっている暇がないような時もあるが、やってきた人に農家の仕事を見てもらうことで、自分の自信につながっている面もある。
・過去には東洋大学の学生がやってきて5年間かけて調査をしていったこともあるし、先日は、福島の子供たちが遊びにやってきた。